

# 令和3年度 学校自己評価システムシート（県立志木高等学校）

目指す学校像	志木高スピリット（立志・言志・続志）の下、高い志を持ち、自分の夢を実現できる学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>学習習慣の確立と授業改善により、主体的な学びを推進し、学力を向上させる。</li> <li>志木高スピリットを醸成させ、夢の実現に向けたセルフマネジメント力を身につけさせる。</li> <li>安心・安全な学校生活を保障し、学校生活に誇りと自信を持たせる。</li> <li>地域とともに歩む、魅力ある高校づくりを推進する。</li> </ol>
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	2名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	7名

年度目標		年度評価（2月1日現在）					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>&lt;現状&gt; 授業公開週間や教員研修を実施するなど、学校全体で授業改善に取り組む意識が醸成されている。令和2年度末に各H R教室にプロジェクター、Wi-Fi環境を整い、Chromebookが配備され、ICTを活用した授業が実施可能となった。</p> <p>&lt;課題&gt; コロナ禍の中で、急速に進化する情報化社会を主体的に学び、生き抜く力の育成が重要となっている。学習習慣の確立とともに、ICTを活用した授業の工夫・改善が必要となっている。また、新教育課程の円滑な実施に向け教育内容、観点別評価等の研究・整備が急務となっている。</p>	<p>①生徒一人一人が主体的に学ぶ学習支援の体制の充実、授業改善の取組</p> <p>②新教育課程の円滑な実施に向けた取組</p>	<p>①・各教科が連携し、ICTを活用した授業改善に取り組む。 ・授業アンケートの実施方法、活用を研究し、教員と生徒の双方から授業改善を体制を作る。 ・授業公開週間において教員相互で授業を見合い、授業改善について協議する。 ・HP及びGoogleClassroomを活用した自宅学習の支援、個別指導のあり方を研究、実施 ・学年及び教務が連携し、「ShikiDiary」を活用した学習習慣の確立及び、自己管理指導に取り組む（通年）</p> <p>②・教育課程委員会を中心に全校体制で取り組む ・R4年度入学生教育計画、評価計画、シラバス作成及び履修指導計画の立案 ・観点別評価の研究・整備</p>	<p>①ICT活用研修の実施状況、授業実践状況 授業アンケートの改善、検討状況及び実施状況 教員相互の授業参観の延べ回数 研究協議の実施状況 HP・GoogleClassroom活用状況 課題提示回数、動画配信状況 各教科、H R担任による手帳活用指導の状況 手帳活用ガイダンス実施、通信発行状況 新聞の各教科における活用状況</p> <p>②教育課程委員会、研修会、各教科会等の実施状況 シラバスの内容及び進行状況 観点別評価の整備状況</p>	<p>【オンライン授業の実施等、コロナ禍における学習保障、生徒が主体的に学ぶ学習支援体制を飛躍的に前進させることができた】 ・緊急事態宣言中（9/6～10/1）対面、オンラインを併用したハイブリッド授業実施1日6時間の学習を保障「しっかりと取り組んだ」生徒85.99% ・GoogleClassroomを活用した動画配信、課題提示の日常化 ・BYODに関する規定作成、ハイブリッド授業報告書作成 ・ICT活用、オンライン授業実施研修会3回実施 ・6月、11月に授業公開及び研究協議を全教科で、のべ12回実施 ・手帳活用ガイダンス全学年実施（4月） ・考査、学年末等で手帳活用指導を断続的に実施。職員アンケート、生徒アンケートによる活用場面と効果測定実施</p> <p>【新教育課程の実施に向け全校体制で取組み、着実に進めることができた】 ・教育課程委員会12回実施、教科会隔週実施 ・観点別評価研修会2回実施。 ・R4年度入学生用シラバス「まなびの手引き」、評価規準、評価計画、履修指導計画作成等、順調に進捗し完成予定。 ・観点別評価総括、成績の内規改訂案作成（3月確定に向け順調に進捗）</p>	A	<p>新型コロナウイルスの影響により、今年度も行事予定の変更を余儀なくされた。学校行事においては、準備期間の確保や実施形態の変更など、配慮事項が多いことから、各活用、学年等と連携することが重要である。ICTの活用については、オンライン授業実施が本校全体のICT活用スキル水準を押し上げた。次年度は令和5年度の一人一台導入に向けた準備を進めるとともに、外部の情報収集等、さらなるスキル・リテラシー向上を目指し取組む。</p> <p>手帳導入から4年が経過し経年変化を分析する必要がある。次年度はさらなる活用促進、セルフマネジメント力の育成に向けて効果的な指導体制強化を図るとともに明確な数値目標を設定したい。</p> <p>新教育課程実施初年度となる次年度は、的確な類型・科目選択のための履修指導、観点別学習評価の適切な運用等について、教務部と教育課程委員会、学年が連携して取り組んでいく。</p>
2	<p>&lt;現状&gt; 志木校スピリット「立志・言志・続志」は学校全体で共有され、根付いてきているが、自学自習、家庭学習時間の確保には、まだつながっていない。進路指導に関する毎年の各行事は定着している。コロナ禍で進路活動にも制約が生じている。ICTの活用が不可欠となってきている。</p> <p>&lt;課題&gt; 生徒の進路意識を高め、日々の学習につなげていく必要がある。各学年でそれぞれの進路行事の目的を共有し、教職員間の共通理解を図っていく必要がある。また、ICTを活用した進路情報の発信及び保護者との更なる協働体制が必要である。</p>	<p>①進路意識を高め、高い志の育成、志を実現する学力向上、セルフマネジメント力を育成する。</p> <p>②保護者の進路意識を高め、家庭と連携した進路指導をおこなう。</p>	<p>①・志木高スピリット（立志・言志・続志）を常に学校全体で共有することにより、進路目標の明確化、日々の学習への目的意識向上に取り組む。 ・総合的な探究の時間・新聞活用事業を活用し、社会的視点を醸成し学びに向かう態度を育成する。 ・「ShikiDiary」を活用し、時間の管理、学習項目の整理等、セルフマネジメント力を育成する ・早期から計画的な準備、対策ができるよう、模試、補講等の指導体制を整える。 ・自習室、ICTの活用等、生徒の進路希望に応じ、学習習慣の確立に向けた支援を行う。</p> <p>②・HP等を活用し保護者向けに進路情報を提供し、保護者の進路意識を高め、「保護者・生徒・学校」の協働により進路実現をサポートする。</p>	<p>①志木高スピリットを自覚している生徒の割合 模試の参加者人数、補講開講数および参加者人数 自習室の活用状況 家庭学習（自学自習）時間の状況 進路希望具体化の状況 生徒・保護者の進路指導に対する満足度</p> <p>②保護者の学校行事等への参加状況 保護者向け進路行事実施状況（年2回以上） 進路情報の発信（HP、スマート連絡帳年5回以上、進路通信年2回以上）</p>	<p>【継続的な、教科、学年と連携した進路指導により、志木高スピリット高い志の育成体制が定着してきた】 ・模試の参加者人数 1年21人、2年72人、3年43人 ・スタディサポート分析会を各学年で実施 ・夏季補講29講座のべ302名参加（前年度251名） ・自習室、資料室ともに離間大を志す2年生の利用が増え、高い志を持つ生徒のすそ野は着実に広がってきている。 ・LHRで手帳指導を実施、学習計画や目標を立てる習慣づくりができていく。 ・「進路指導がよく行われている」と回答した生徒89.2%、保護者87.6%</p> <p>【コロナ禍の中、HP等を活用し保護者へ進路情報を継続的に提供できた】 ・進路指導部、連携広報部が連携し、動画による説明会実施 ・推薦入試、オープンキャンパス、模試等の成績など各種面談に向けた情報提供</p>	A	<p>3学年になってから模試や補講を受け始めるのでは遅い。1. 2学年向けに進学をより意識させ補講を増やして行きたい。次年度は新教育課程となり、類型制導入となることから、生徒が自分の進路に合わせ、適切に類型選択ができるよう、より踏み込んだ進路指導を実施していく必要がある。進路行事、類型選択指導を効果的に連動させていくため、教務部、学年との連携を密にし計画・実施していく。</p> <p>新入試制度への理解が定着するまで、より細かな情報収集が必要とされている。オンラインを利用したよりタイムリーな情報発信を充実させていく。</p>
3	<p>&lt;現状&gt; 注意喚起や見守り指導により、落ち着いた学校生活は確保できているが、SNSによるトラブルや交通事故等の未然防止には至っていない。コロナ感染予防対策は一定の成果を上げている。</p> <p>&lt;課題&gt; 学校内外での危機管理能力を育成し、トラブルを未然に防ぐことが課題である。また、学校生活に誇りを持たせるためには、生徒に自己有用感を持たせるとともに、個に応じた指導体制及び、教育相談の充実が必要である。またコロナ禍における学校行事、部活動の充実について、新たな発想や工夫が必要となっている。</p>	<p>①事故防止と良好な人間関係づくりを支援し、安心・安全な学校づくりを進める。</p> <p>②生徒の自主的な取り組みを支援し、学校生活に自信を持たせる。</p>	<p>①・PTA、地域と連携するなど、校内外における交通安全指導を実施し交通マナーに取り組む。 ・携帯・スマホマナー教室の実施やポスターの掲示等によりSNSによるトラブルを防止を啓発する。 ・スクールカウンセラーを活用し、教育相談を充実させ、全職員の共通理解の下、個に応じた指導体制を作る。 ・探究プログラム委員会を中心に自他を尊重する心を育む教科横断的な学び、探究活動に取り組む。 ・家庭と連携し、新型コロナウイルス感染予防対策を適切に行い、感染拡大防止に取り組む。</p> <p>②・コロナ禍の中で感染拡大防止の観点から安全・安心を最優先とし、学校行事や地域交流活動の運営に、生徒会を中心に生徒が参画する体制を作り、生徒の自己有用感を高める。 ・学校行事や部活動で成功体験を積みませ、学校への帰属意識を高める。</p>	<p>①校外交通安全指導の実施状況 年間重大交通事故件数 携帯・スマホマナー教室実施状況 サイバーパトロールからの報告件数 スクールカウンセラーによるカウンセリング、特別支援委員会における情報共有の実施状況 感染予防対策実施状況</p> <p>②学校行事の実施状況 地域交流活動や地域貢献活動の生徒の参加状況 学校行事・部活動に意欲的な生徒の割合</p>	<p>【新入生生徒支援部の立ち上げにより、個に応じた支援体制、安心・安全な学校づくりが、より効率的、効果的に推進できた】 ・年間重大交通事故0件「交通ルールを守っていた」生徒97.99% ・PTA・生徒、教員の協働による交通安全指導のべ9日12箇所にて実施 ・下校時の見守り指導実施（随時） ・携帯・スマホマナー教室実施（12月） ・サイバーパトロールからの報告件数3件 ・スクールカウンセラーによるカウンセリング22回実施、のべ人数33人 ・スクールカウンセラーによる研修会実施 ・スクールソーシャルワーカーによる保護者カウンセリング実施 ・特別支援委員会6回実施 ・昼食時の感染予防巡回指導実施</p> <p>【コロナ禍の中、感染拡大防止を最優先に学校行事を実施し、生徒の創意工夫と自主性を引き出すことができた】 ・文化祭実行委員、生徒会本部役員を中心に映像による文化祭実施。各クラスが作成した映像や体育館での生中継を組み合わせた形式は、生徒が個性を表現する場を提供し、生徒の自己有用感向上に効果的であった。 ・コロナ禍の新しい形の文化祭としてテレビ埼玉「マチコミ」にて紹介（2/2放送予定） ・「部活動に意欲的に取り組んでいる」生徒68.7% ・「学校行事に積極的に取り組んでいる」生徒86.0% ・「志木高校に入学して良かった」と感じている生徒85.0%</p>	A	<p>次年度も「命を守る指導」を核として、交通安全、手洗い、うがいを徹底させるとともに、自他を尊重する心の育成を図っていく。</p> <p>スマートフォンの利用過多が生活リズムを乱していることが明確になってきている。次年度はHR委員会や生活委員会を中心に生徒自身によるスマートフォン利用のルールづくりをすすめていく。</p> <p>スクールカウンセラー活用体制が定着し成果を上げている。次年度はスクールカウンセラー以外による教育相談体制を整え、よりきめ細かく不安や悩みを抱える生徒を把握し、情報共有していく体制づくりを行う。</p> <p>学校行事を生徒が主体的に運営する体制づくりを進め、学校行事ごとの委員会や係設置を検討していく。</p>
4	<p>&lt;現状&gt; コロナ禍で地域交流活動が制限される中、ホームページ等、様々な媒体をとおして、本校の魅力を発信し、保護者・地域との交流を積極的に行い信頼を得ている。</p> <p>&lt;課題&gt; 地域とともに歩む学校となるためには、本校の教育力を地域に発信し、開かれた教育課程を実現する必要がある。コロナ禍の中で地域交流のあり方について、検討していく必要がある。</p>	<p>①志木高校を中心とした地域交流の輪を広げ本校の教育力を地域に発揮する。</p> <p>②保護者、地域に向け志木高校の魅力を積極的に発信する。</p>	<p>①・本校を会場とした地域交流活動「志木高倶楽部プロジェクト」を実施する。 ・コロナ禍の中の地域連携について課題を明確化し実施に向けた方策を立てる</p> <p>②HPを本校の教育活動や魅力を地域に発信・交流する場とする。生徒、保護者にとって有益な情報交流の場として活用する。 ・学校説明会、部活動公開等を充実させ、地域の保護者、中学生に本校の魅力を積極的に発信する。</p>	<p>①「志木高倶楽部プロジェクト」実施状況及び生徒の参加状況 コロナ禍の交流活動の検討状況</p> <p>②学校ホームページの更新、活用状況 学校説明会、部活動公開の実施回数、参加状況</p>	<p>【コロナ禍の中で部活動を中心とした地域交流を継続的に行うことができた】 ・コロナ禍の中で「志木高倶楽部プロジェクト」は実施できなかったが、部活動を中心に小中学校や地域と連携し、本校生徒の活躍の場を広げることができた。 ・志木高グッズ（付箋、不織布バック）作成</p> <p>【様々な媒介を通して保護者、地域に向け本校の魅力を発信できた。】 ・学校HP更新 運動部95件、文化部8件、こころざし日誌50件（1/11現在） ・学校HP閲覧数70104件（6/1～1/11）1日平均300件 保護者向け進路説明会動画配信などHP活用が進んでいる。 ・学校説明会4回、部活動公開4回実施 1117組参加 ・HPにて学校説明会の様子を配信 ・広報誌「ゆりかもめ」年3回発行 ・「学校はHP等で情報をよく公開している」と回答した保護者81.0%</p>	B	<p>保護者緊急連絡「スマート連絡帳」の活用で課題が残った。次年度は緊急連絡アプリを変更するとともに、SNSを活用した情報発信についても研究していきたい。</p> <p>コロナが収束せず先が見えない中で、地域交流事業について検討を進めることが難しくなっている。次年度は今年度スタートした学校説明会ボランティアスタッフを、地域連携スタッフとして発展させ、地域連携、地域交流事業に繋げていきたい。引き続き学校説明会の内容を充実させ、本校の魅力発信を行っていく。</p> <p>コロナ禍の中で、PTA総会をオンラインで行った。次年度以降についても、オンラインを効果的に活用し保護者全体が参加しやすい工夫を行い、PTA活動の活性化を図っていく。</p>

学校関係者評価	実施日 令和4年3月22日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・「進路指導がよく行われている」と回答した生徒89.2%、保護者87.6%はとて素晴らしい数値である。日頃から進路指導が着実に進んでいることへのヒビンスである。多様な生徒さんの進路があり、それぞれきめ細やかに対応しなければ、このような高い満足度は得られない。夏季補講29講座、参加者302名（前年度251名）も参加者が飛躍的に伸びており、高く評価したい。</p> <p>・生徒さんの進路ご希望は多岐にわたる。また社会の先行きも不透明な部分が多い中で、一人一人の生徒さんに寄り添った進路指導のあり方を学校全体で一丸となって模索されていることが窺えた。</p> <p>・「Shiki Diary」の有効活用を課題として挙げられる場面が多い印象がある。進路目標のセルフマネジメントは大事であり、Diaryも工夫に工夫を重ねて作成されているものなので結論否定はしないが、一方で、Diaryの使用が目的化されないことも大事かと思う。（Diaryはあくまで進路指導充実のためのツールと思う）。</p>
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・年間重大交通事故0件は、高く評価できる。そのために、先生方が、PTAや地域のみなさんの協力も得て、日頃から地道な取り組みをされていたからその成果である。生徒の安全確保は、当然最優先事項であり、その他の取組みも評価できる。</p> <p>・コロナ禍の学校行事を、感染防止を最優先に、映像を使ったりして工夫して実施して、教育を止めない行動には、頭がさがる。本当に生徒のことを思っている。いじめが2件認知されていることですが、まずはいじめが「ある」ということを公にされていることに敬意を表します。このご時世では心身に様々な不調が現れる生徒さんも少なくないものと思う。先生方も平時とは違う重圧がいろいろと重なってしまっていると思う。SGやSSWの先生方も連携しながら、生徒さんは勿論、先生方や保護者の方々も含めた心身の不安除去を進めていってほしい。</p> <p>・文化祭を中止とせず、映像によって実施されたことは素晴らしいことと思う。対面でも出来るに越したことはなかったと思うが、この社会状況ではそれもなかなか難しく、「コロナ禍でもできる学校行事のあり方」を模索する必要があるが生じているものと思う。今後に繋がる大きな成果を挙げられたものと思います。</p>
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・地域貢献を行うための社会活動に、生徒を積極的に参加させることは、生徒の人格形成に極めて重要であり、地域社会とともに生徒一人一人を育てようとしている志木高校のすこさである。コロナ禍であり、とても苦勞として教育を止めないことを目指しているが、はやくコロナが終焉してほしい。広報活動は実にすばらしく、学校HPの更新も、絶えず行われており、見事である。</p> <p>・コロナ禍で、地域と関わることについては今年度も本当に困難の多い1年であったことと拝察する。学校説明会や、オンラインでのPTA総会など、このような社会状況でも出来ることを最大限に模索している。市内の生徒の割合が少ないことを課題として挙げていて、見方を変えれば、これは「近隣自治体でも志木高の認知度（人気）が高い」ともいえるものと思われる。問題・課題とする必要はあまりないのではないかと感じる。「コロナが収まったら行いたい地域交流活動」について、可能であれば生徒さんも交えながら色々具体案を練り始めてみてほしいのではないかと感じる。</p>